

流行ニュース：<黄熱、パラグアイ>

パラグアイの保健福祉省(MSPBS)では、黄熱が蔓延しているサンペドロ州のLaurelty近郊の都心部と、2月22日から2例の感染が報告されているCaaguazu州に対する大規模な予防接種キャンペーンを続けている。また、3州のサーベイランスシステムによって、2008年1月17日から3月13日までに、24例の確定症例と8例の死亡が報告されている。

パラグアイではすでに150万人以上が黄熱の予防接種を受けている。今回の大規模な予防接種キャンペーンは、この疾患のベクターが存在する他の感染危険地域における感染症例を予防するために行われている。

MSPBSではパラグアイを訪れる全ての旅行者に対して、出発前に黄熱ワクチンの予防接種を受けることを勧告している。

2008年2月24日、黄熱に対するワクチン供給の国際調整グループ(YF-ICG)は200万本の黄熱ワクチンの出荷に同意した。汎米国保健機関(PAHO)とWHOによる専門家チームは、MSPBSにおける危機管理、リスク伝達、現地疫学、検査室での診断、予防に対する技術協力の提供を継続している。

ワクチン投与後有害事象(副反応事例)(AEFI)に対する効果的なサーベイランスシステムは、大規模な予防接種キャンペーンを始める際に設置された。黄熱ワクチンは最も効果的で安全なワクチンの一つと考えられており、AEFIは世界中でほとんど報告されていない。2007年3月までに報告された黄熱に関連するAEFIはわずか36症例のみである。パラグアイでは、AEFIが疑われるわずかの症例が調査されているが、ワクチンとの関連性は定かではない。また、他の大規模予防接種キャンペーンにおいても、大半のAEFIの報告は原因が定かではなく、ワクチンとの関係は偶然であるということも考えるべきである。

<急性弛緩性麻痺(AFP)のサーベイランスの結果とポリオの発生率、2008年(WHO本部データ、2008年3月4日現在)> (WER参照)

(山口良太、野村佳代、中園直樹)